

専門研修プログラム名	総合病院国保旭中央病院連携施設精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	総合病院国保旭中央病院	
プログラム統括責任者	磯野友厚	
専門研修プログラムの概要	<p>総合病院国保旭中央病院は創立65年を迎える989床を有する地域基幹病院である。38診療科を有し、PETをはじめ先端医療の装備を有している。24時間365日一次から三次までの救急に対応している。●神経精神科は、51年の歴史の中で、我が国における地域精神医療の先駆的役割（多職種チーム医療、精神科救急、児童精神科、地域移行、ACT等アウトリーチサービス、災害精神医療、クロザピンやm-ECT等の治療抵抗性疾患の治療、リエゾンチームによる一般身体疾患へのメンタルヘルスサービス、認知症疾患医療センター、精神科リハビリテーション）を担ってきており、精神科サービスモデル旭モデルを構築している。これらのサービスにより、重症者の地域移行が可能となり、大幅な平均在院日数の減少、事例の救急化の防止、統合失調症の再発率が低下し、世界標準の地域精神医療を展開している。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>●また、このプログラムでは地域精神医療を活発に展開している精神科病院と連携をとり、精神科の幅広い領域での研修を行う。木村病院では、急性期の精神疾患の治療を行うとともに、デイケア等の精神科リハビリテーションを体験し、慢性の精神疾患患者への総合的な治療を習得する。多職種との協働の中で、地域移行を積極的に行い、リハビリテーション、訪問看護、グループホーム等の幅広い治療ケアを習得する。海上療養所では、付属の様々な福祉施設と連携をとり、障害者が地域で暮らしていくためのさまざまな援助を行うとともに”障害者の権利回復”という真のリハビリテーションを習得する。藤田病院では、精神科かかりつけ医としてプライマリケアにおける精神疾患や司法精神医学の研修を行う。</p>	
専攻医の到達目標	<p>修得すべき知識・技能・態度など</p>	<p>知識：1) 患者及び家族との面接 / 2) 疾患の概念と病態の理解 / 3) 診断と治療計画 / 4) 補助検査法 / 5) 薬物・身体療法 / 6) 精神療法 / 7) 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉 / 8) 精神科救急 / 9) リエゾン・コンサルテーション精神医学 / 10) 法と精神医学（鑑定、医療法、精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法、成年後見制度等） / 11) 医の倫理（人権の尊重とインフォームド・コンセント） / 12) 安全管理・感染対策 ●技能：1) 患者及び家族との面接：面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を維持する。2) 診断と治療計画：精神・身体症状を的確に把握して診断・鑑別診断し、適切な治療を選択するとともに、経過に応じて診断と治療を見直す。3) 薬物療法：向精神薬の効果・副作用・薬理作用を習得し、患者に対する適切な選択、副作用の把握と予防及び効果判定ができる。4) 精神療法：患者の心理を把握するとともに、治療者と患者の間に起る心理的相互関係を理解し、適切な治療を行い、家族との協力関係を構築して家族の潜在能力を大事にできる。支持的精神療法を施行でき、認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導のもとに実践する。5) 補助検査法：病態や症状の把握及び評価のための各種検査を行うことができる。具体的にはCT、MRI読影、脳波の判読、各種心理テスト、症状評価表など6) 精神科救急：精神運動興奮状態、急性中毒、離脱症候群等への対応と治療ができる。7) 法と精神医学：精神保健福祉法全般を理解し、行動制限事項について把握できる。8) リエゾン・コンサルテーション精神医学：他科の身体疾患をもつ患者の精神医学的診断・治療・ケアについて適切に対応できる。9) 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、および地域精神医療：患者の機能の回復、自立促進、健康な地域生活維持のための種々の心理社会的療法やリハビリテーションを実践できる。10) 各種精神疾患について、必要に応じて研修指導医から助言を得ながら、主治医として診断・治療ができ、家族に説明することができる。</p>

	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	入院患者に関するカンファレンス、外来患者に関するカンファレンス、アウトリーチチームによるカンファレンス、脳波判読に関するカンファレンスなどを行う。
	学問的姿勢	1) 日本精神神経学会学術総会に参加し、基本的な知識・技能を学ぶ2) 症例カンファレンスや抄読会、勉強会に参加し、討論に参加する。3) 症例報告を中心とした臨床研究などを日本精神神経学会ないしは所定の関連学会で、第一演者として1回以上発表する。4) 論文発表ならびに臨床研究への参画等を行うことが望ましい。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	1) 患者や家族の苦痛を感じとれる感性を錬磨し、苦痛を和らげるための努力を続ける姿勢●2) コミュニケーション能力を向上させて、チーム医療に積極的に参加し、必要に応じて適切なリーダーシップをとれる姿勢●3) 情報開示に耐える適正な医療を行う姿勢●4) 謙虚さと厳しさをもった自己研鑽の態度●5) インフォームド・コンセントを実施できる●6) 後進の指導ができる●7) 科学的根拠となる情報（EBM）を収集し、それを臨床に適用できる●8) 科学的思考、課題解決型学習、生涯学習の姿勢を身につける●9) 症例呈示と討論ができる●10) 学術集会に積極的に参加す
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	<1年目>指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、良好な治療関係を築くための面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。院内カンファレンスで発表する。●<2年目>指導医の指導を受けつつ、より自律的に面接の仕方を深め、診断と治療計画策定の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させる。専門的な精神療法として認知行動療法と精神力動的療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害及び種々の依存症患者の診断・治療を経験する。院内のカンファレンスで発表し討論する。●<3年目>指導医から自立して診療できるようになる。診断と治療計画及び薬物療法の診療能力をさらに充実させるとともに、認知行動療法、精神力動的療法、森田療法・内観療法のいずれかについて、指導者の下で経験する。慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害及びパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の研究会などで症例発表する。
	研修施設群と研修プログラム	基幹施設 旭中央病院、海上寮療養所、藤田病院、木村病院、国際医療福祉大学 成田病院
	地域医療について	施設に属するアウトリーチチーム、地域の訪問看護ステーション、各種行政機関とも連携をとりながら精神科医療・ケアを実践していく機会をえる。
専門研修の評価	総合病院国保旭中央病院：磯野友厚●木村病院：松木 悟志●海上寮療養所：古川賢臣●藤田病院：渡邊基樹●国際医療福祉大学 成田病院：中里道子	
修了判定	日本専門医機構が認定した精神科専門研修施設で、精神科専門指導医の下に、研修ガイドラインに則って3年以上の精神科臨床研修を行い、研修の結果どのようなことができるようになったかについて、専攻医と研修指導医が行うチェックリストによる評価と、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求め、プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況进行评估する。
	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。また各施設の健康管理基準に準拠する。※ いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

専門研修管理委員会	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	精神科専門医制度 専攻医研修マニュアル に準拠する
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	精神科専門医制度 専攻医研修マニュアル に準拠する
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	適宜受け入れ可能
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	青木 勉 旭中央病院 主任部長, 川副 泰成 旭中央病院 部長, 矢野 望 旭中央病院 部長, 大塚 祐司 旭中央病院 部長, 磯野 友厚 旭中央病院 部長	
Subspecialty領域との連続性	小中学生を含む児童思春期外来および入院ケースを経験する機会が得られる。	